

令和4年3月10日

令和3年度第3回大垣市障がい者の暮らしを支える協議会 全体会書面会議の結果報告について

1. 令和3年度各部会の開催報告について

○感想等

(医療的ケアが必要な方への支援について)

- ・今後も継続的に課題として取り上げ、医療機関への働きかけを行っていけると良い。
- ・医療的ケア児支援法が施行されたこともあり、予算的措置も含め、一層、体制整備が進むことを期待したい。これにより小中学校に通いたい医療的ケア児の学びの場が広がると考える。

(研修内容について)

- ・権利擁護部会の虐待防止研修は、これまでの支援を根本から振り返る大変良い機会になったように感じる。
- ・子ども・暮らし支援合同研修では、幅広い参加があり、また強度行動障がいの方への支援について分かりやすいお話を聞くことができた。実体験から具体的な支援のヒントを得ることができた。
- ・権利擁護部会の家族の問題については重要なことだと感じた。

(その他)

- ・部会ごとのリモート会議や研修会は関係機関の情報共有や連携に必要だと思うので、引き続きお願いしたい。
- ・各部会ごとに、今課題になっていることをテーマにして会議が行われていることがよく分かった。難しい課題も多いため、このような会議を継続していくことが必要だと感じた。

○質疑、意見

- ・次年度のテーマについて、「大垣市障がい者総合支援プラン」と絡めていくのはどうか。プランの中間年として、プラン達成に向けての各事業所の問題点や課題を出し合い、解決策を考えていくことが必要。
- ・障がい者を受け入れている企業が、どのような合理的配慮をして受け入れているかがわかるパンフレット等があると良い。
- ・自分では虐待と気付かず行っている事の事例を集めた冊子などがあると良い。
- ・課題に対する他の自治体における成功例を共有する機会があると良いと感じた。
- ・地域生活支援拠点の登録については、事業所の不安や負担を減らしていくことや、事業間の連携についても参加しやすい体制作りを行っていくことが行政の役割であると思う。

- ・地域生活支援拠点について、24 時間体制の対応をいかに構築していくかも課題になってくるのではないかな。
- ・コロナにより行動範囲が狭くなりつつあると思うが、スタッフの補強や人材の確保をできると良いと思う。
- ・子ども支援部会の報告から、相談支援専門員なら専門知識も深いと思うが、事業所に一人だけでは燃え尽き症候群になってしまうのではないかな。自分だけで問題を抱え込まないように、定期的に相談できる環境作りが必要。

○質疑、意見に対する事務局回答

- ・今年度の部会開催で明らかになった課題や「大垣市障がい者総合支援プラン」の成果目標に関することからテーマを絞り込み、来年度以降の部会で取り組んでいきたいと考えております。
- ・行政側だけでなく、事業所側の意見も十分に聞きながら、各関係機関が同じ方向を向いて取り組めるように協議を進めることで、本市の障害福祉サービスの向上につなげてまいりたいと考えております。

2. その他、ご意見について

○意見

- ・対象（参加者）が関係機関だけでなく、事業によっては一般市民参加の開催があっても良いと思う。
- ・部会の参加メンバーと事務局が合同で企画して進めていくのも一つの方法ではないかと思う。
- ・協議会としていろいろな面で協議し、暮らしやすく考えていく一方で、障害者本人の困り感がないのが一番の課題だと思う。
- ・1人の障がい者が成長していく過程で、受けられる支援は生活の変化に伴って柔軟に対応できる、きめ細かいものである必要がある。
- ・医療的ケアが必要な難病者も障がい者であることの周知、理解啓発が必要。
- ・全体会もリモート会議ができるとありがたい。
- ・今年度はコロナ禍でやむを得ないと思うが、出来れば少人数で集合して話し合うことが必要ではないかと思う。

○意見に対する事務局回答

- ・課題解決には時間を要するものが多いですが、すぐにでも取り組むことができるものはないかという視点で、各立場の皆様にご参加いただきながら、効果的な協議会になるようにしてまいりたいと考えております。
- ・本協議会は、各関係機関の顔の見える関係づくりも開催目的の一つであるため、全体会・部会ともに新しい生活様式の中で工夫して開催してまいりたいと考えております。